（日刊）　第13号　（日曜日）　六月六日　磐城毎日新聞　圓二頁部一　圓十五月ヶ一　定價　（1950）　昭和二十五年

磐城毎日

福島縣平市南町六六（平局區内）
發行所　株式會社磐城毎日新聞社
編集兼印刷人　遠藤孝倫
發行人
電話（平）一二一〇番

讀愛御下さい

地方區保守黨勝つ

橋本文書戰効を奏す

侵蝕に苦戰の木村危機突破

參議院地方區選擧は地方民多數の注目の的となつてゐた、保守進歩兩派の競で木村、橋本、田中の三人を巡り田中が絶對優勢を傳えられ投票二日前から木村危しの報が傳はつた、憂色に包まれた木村派は死斗の宣傳に漸く形勢は挽回したが五日未明までは絶對に安心は許されず田中(社)の健固な地盤とされてゐる湯本四千百四十票を八十票追越したのに稍安堵の胸をなで下したものであつた、この出ではまだ〳〵木村を悲觀させた大丈夫と午前三時には各社の特報がまだ明けやらぬ闇を突いて市内各所に橋本、木村當選確實の貼り出が出た、然し大沼郡下横田、昭和の二村が豪雨の爲め河水氾濫して開票の運びに至らなかつたのと浮動票四千票が縣では精調されてゐたので木村二拾万五千三十八票に對し田中二拾万四千二十八票、この差千拾票だつたか平市の有權者は午前中續々押かけ出足の好調だつたのと午後から降雨となり市外飯野や神谷は農事から投票場へゆくものの多數あり棄權者は一割二分五厘と云う好成績で地方區一万八千二百五十二に對し九百二十二票、全國區一千七百五票の無効票があつた

尙縣下五市の投票率は

平市	八七、七％
郡山市	八一、七％
若松市	八一、四％
白河市	七七、五％
福島市	七五、八％

となつて居り縣下一位の好成績である

守黨の勝利に歸した、組織と結束から絶對的に樂觀視されてゐた田中の落選となつて終幕された

雨模様の選擧日であるため

平の投票

五市第一位

橋本、木村當選決定

地方區參議員に橋本、木村氏は左の得票で當選した

橋本萬右衛門（自由）　二三七、九〇六票

木村守江（自由）　二〇六、一一一票

次點　田中利勝（社）　二〇四、四六二票

選擧雜感

參議員普通選擧も終つてまだ全國區は正式に發表になつてゐないが、地方區は決定した本縣では絶對的な保守黨勢力下にあつて進歩派がどれだけ喰い込んでゆくか、分裂脱黨など最近多難な共產黨の動きから見るに今度の選擧結果は興味あるものであつた

自由黨から二人の公認候補を出したことは精密な秘策の結果であつたものと思う、然し田中(社)の人氣には自由黨も度膽を拔かれたものだつた、何れかの一人を犧牲にすることは止むを得ぬ氣配さえあつた

躍氣の安全確保の爲め濱通り双葉、相馬の票田に橋本候補が進出し同志打ちの混戰が豫想されたその爲めであらう木村危うしの報が眞しやかに流布された、木村と田中の勝負として押しつ押されのうちにゴールに入つた、田中が敗けたのである、一千六百四十九票の差では消息筋の觀測は當らずとも遠からずであつた、橋本は顔と文書戰が物を言つてゐた、木村は黨の力に俟つものがある、それ故一部の微妙な動きにざわめかなければならなかつたそこへゆくと進歩黨は組織に依存しすぎて實彈の續かぬのが恨みであらう

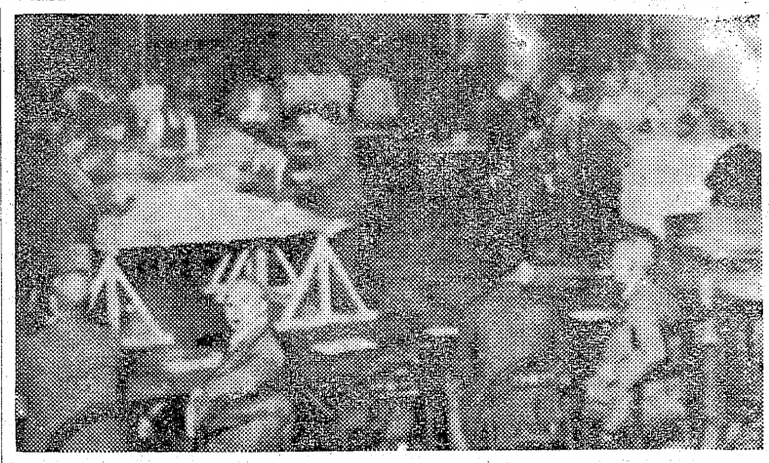
所謂理想選擧の理想でない證據である、それにしても進歩黨の弱さを痛感せざるを得ない

服部(共)双葉一千百二十二、石城六千十四、計七千百三十六を集めてゐる双葉、石城二郡投票數九万九千四百四十九名に比すれば百人に對して七人が黨員及びそれに關連する者と見做すことが出來る然しこれは有權者のみの比率であるから總人口の場合は百人に一人位の黨員とその支持者がゐることを知ることが出きるこれを町村別に見ると炭礦地帶の内郷一千三百五十九名に次で好間、湯本町、山田村となつてゐる一番少ないのは渡邊、小川の三十名と云つた農村地帶であり二十九ケ町村に何れも黨支持者が多少なりゐる、双葉郡下では一千一百人と流石に農村の思想を物語つてゐる、衆議員選擧當時よりは漸減してゐるもので日本の政治も灰色政黨や共產政黨が進展性を失つて二大政黨への轉換期に入つた感を深くするものがある

郡收入役會

石城郡收入役會では木年度の初會を八日午前十時半より勿來町小學校に開催、左の事項を協議する

△先年度の收支決算報告
△會費分擔
△本年度の收支豫算



關係候補の安危如何にと詰寄つた市民七十餘は緊張してゐる。深夜の開票場の市公會堂では五十名の係員が徹宵して二万の投票用紙をいろは別に區分した　（寫眞は市吏員の開票事務と市民）

地盤に物言う保守

木村石城で七萬得票

石城郡下、平市及び町村の三万六千八百十四票、橋本各候補得票數は地元選出と六千一百九票の順となつて傳統的保守黨の勢力が物をゐる、主要町を候補別に見ると言つて木村群を拔て六万五千九百四十七票、次で田中

主要町村	木村	橋本	田中
植田	一、八六〇	二八三	八四〇
錦	一、八〇九	三四七	一、三一七
勿來	二、三八五	三〇〇	三、二四五

人事ニュース

作山平電氣通信管理所長は事務打合せのため四日福島へ出張七日に歸平の豫定

仙台郵政局大久保局長三日夜來平、局内巡視の後從業員一同に對し民主的な事業官廳の在り方、郵便事業にたずさわる公務員の在り方に就て約二十分にわたり講演、五日十二時出發した

平教委所長

三中へ復職

縣教育委員會菱沼儀平出張所長が平三中へ復職した爲會長席は空席だつたが石川出張所長添田猪之吉氏が就任した

平市山岸税務課長は全國市部税務課長會議のため五日上京、十日歸廳の豫定

教委石城主張所社會教育主任草野仁氏は六日出縣七日歸廳する

空飛ぶ絨毯

家の小やぎ

平二小　四の一　大内照子

私の家の小やぎは先週の土曜日私と妹がおるすいをしてゐる時に生れました、小やぎは生れた時からくりくりした大きなかわいゝ目をぱつちりあいてゐました、からだにくらべて足はほそくてとても長くおれはしないだらうかと心配なくらいでした、もう三日目ころには親について元氣よく走りまわつてゐました、お母さんやぎが草を食べてゐるとそばで小やぎはふしぎそうにお母さんやぎの口元を見てゐます、小やぎはお母さんやぎのまねをして時々青草の葉を小さい口でもぐもぐかみますが、すぐに出してしまいます、まだほんとうに食べられないのかもしれません、小やぎをそつとだいてやるとかぎがなくと親やぎは心配でわいゝ顔を私のむねにつけておとなしくしてゐます、子小やぎの小さな息づきが私のむねにひゞいてきます、私は小やぎがかわいくて學校から歸るとやぎ小屋にいかない日はありません、小やぎはうれしい時はピョンピョンとび上ト三十センチぐらいとび上りお母さんのそばへ大いそぎでかけていきます、とまりきれないで草むらの中へころびます、小やぎはおすなのでよそへくれてやらなければならないとお父さんがお話していますが私はどうにかして家でそだてゝやりたいと思つてゐます「ユケー」とにわとりの鳴くような高い聲で小やぎが鳴きます、小やぎが「メエー」と心配そうに鳴きます、やぎ小屋から親だけ外へ出すと小やぎが小屋でかなしそうに鳴きます、小やぎがなくと親やぎは心配でまだ小屋にもどります、子小やぎを思ふ親やぎのようすを見てゐると私の心の中にあたゝかい氣持がながれるような氣がします、私もやぎなどにまけないでお父さんお母さんのお言いつけをよくまもり、りつぱな人になるように心がけたいと思います

大島

磐高　杉原八郎

卯の月のくもり船首に白く散る
船首したゝかに卯浪を裂い
さえずりやアンコ冠をかざしつゝ
藤も垂れし島やアンコの言かろく
夏めくやアンコの冠天掛るゝ
アンコ冠がひらめく卯浪が
天にひらめきて
火の嶺をたゞ戀ふばかり春のゆく
火の山の魂春霧にひそみけり
右足を痛む
火の山や五月の足を斯くあれば
はれむ
火の山の巫女かアンコは春霧食み
大島を去る
初夏やたゞ默念と土を踏む
卯浪立つ遠くなほ遠く大島節
春曉の默破り得て伊豆を訪ふ
卯の女波天を戀しくかけめぐる

箱根旅行吟

磐高　2H・R　和田

旅立ちて映る月影色弱く
母思ひたちて水濁り來ぬ
星空は箱根の山をおほひつゝ
雲低くして月影覺ゆ

東海道線　大樂武男

蒸氣もて旅せし唄をしのぶ
電氣の旅のいかに樂しき
若々と綠立ちたる松が葉に
苦心のあとぞ酒匂川かな
黑潮の紫遠き相模灘
湘妃の琴をかなでるがごと

熱海

三たび火にたゞれても尙榮
えるは
まことに筆の力なりとぞ
箱根なる谷の綠を翠雲の
昇りくるあり五月雨もよき
友がらよ何をいとうや五月
雨に
早川の歌谿谷の繪ぞあり

江名	二、五五四
小名濱	四、九九九
湯本	四、二二二
内郷	四、五〇九
四ッ倉	四、〇四四
平	一一、四七四
	三一八
	七一二
	四〇六
	二一五
	七一
	八三五
	三二五
	一、七五二
	四、一四〇
	六、四六一
	二五八
	四、一七〇

でこの表を見ると橋本の喰い込による木村危しは當つてゐない、郡下の總計でも五千三百八十四で木村の一割にしかならない、双葉郡下では木村の二万九百九十四に對し五千百二で約四割を取つてゐるから双葉郡には相當動きかけてゐることは窺れてゐる、次点の田中が勿來、内郷、湯本の炭礦街に根强い組織を持つて木村とどつこいどつこい勝負をしてゐるし、木村の迫力が現れてゐる、まだこの地盤と小名濱關係の積極的動がなかつたら同志橋本の喰込と見られる双葉の蠶食から救いあがることは出來なかつたであらう

開票の夜地方事務所では各町村役場投票所から電話で報告してくる開票結果を集計するのに大童で一同徹夜で頑張つたが、電話がとだえて忙しさも峠を越し夜も白んでくる頃となると豪の者揃ひの所員も流石に疲れたとみえ特配の乾パンをもぐ〳〵やる人もなく眠氣覺しとひつきりなしに煙草をふかしてゐたが、愈々總締めとなる項は何度算盤を彈いても御破算で洗顏しても効驗なく八時に出勤した所員と交替して漸く解決した程であつた

祝　磐城毎日

土木建築請負　発刊　設計・製材

平市正月町二十四番地　鈴木工業株式會社　電話一四六八番　一〇九五番

社長　鈴木正平

煙草の覺醒劑で夜明す

電話にかぢりり付く受領係り

審判の證據固めにくたくたく

五市第一位と云う好成績で棄權の汚名返上した平市では市民の認識も高まつてゐるのであらう、不在投票が三百と云う新記錄をつくてゐるし、リヤカーで乘り付ける老人や不具者まで選擧管理委員も氣を良くしてゐた、午後六時に締切つて愈々開票の段となれば今度は氣揉む運動員や關心をもつ市民が開票場に押寄せるこうゞと照す電燈の下二万の票は區別されるので轉手古舞だ朝の七時から罐詰となつてゐる監視員や立會人と大分疲れの色が濃い午後十時夜食のパンが配られて來た係員は立ち喰えのまゝ選別は續けられる浮動票や不定票の照り合せも濟んで地方事務所へ報告されたのは午前二時を過ぎてゐた管内總元締の地方事務所は三十ヶ町村からの結果報告を受領し之を福島縣廳に報告すると云う戰場そのまゝだつた、午后八時十八分鹿島村の結果、報告に次で泉高久、夏井の順だ十時過ぎは大体手に入つたが内郷と平市の分に手間取つてゐる綿の様に疲勞した一同はまどろむひまなく夜は白ばんでくる午前三時には縣から の情報も入つて來たが覺せ劑に煙草の火は矢たらと喫理に乘出すことになつた、日割は左の通り

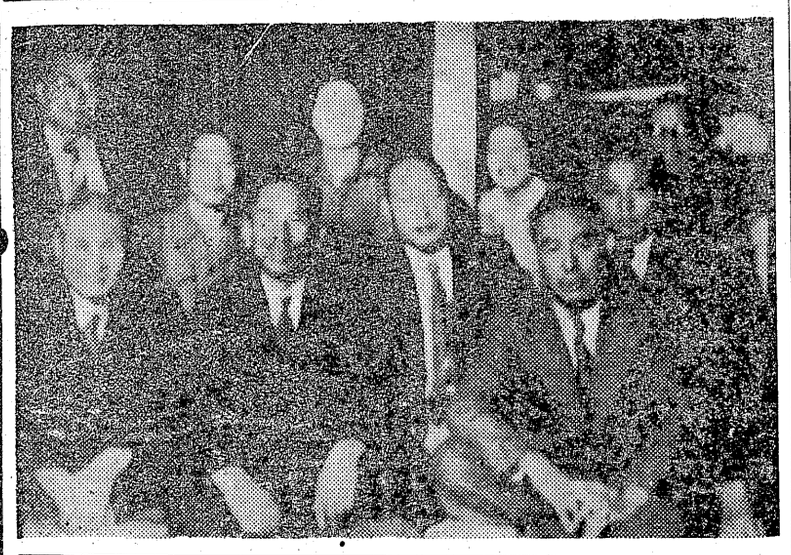
改正税法

八日平公會堂で

既報六、七の両日平税務署では平、四倉、植田、湯本小名濱の五ヶ所で改正所得税法の説明會を開くが改正法人税法については八日平市公會堂、九日小名濱（アグリ組合）何れも九時半より、留保資金に對する課税△超過所得に對する課税全廢△積立金に對する二割の課税（同族會社に於ては積立金が五十万円を越せば七割の課税）△清算所得（會社の解散）に對する課税全廢等でこれはシヤープ勸告に基いて改正され法人は株主であり個人の集合体であると解釋が變つだ結果で株式配當に對する源泉徴收廢止も含まれ收益率の高い企業程負擔はいちぢるしく減少されることになる

抱負は發表ずみ

木村さんカメラに



選擧運動の疲れもどこへや ら參議員に當選した木村守江さん五日朝平市二丁目の事務所に現れ家の子郎黨に圍れて本社のカメラに納つた、感想はと問えば「抱負は既に政見で發表してゐる 改めて言うことはない、目的に向つて十分働くだけだ皆さんの御支援で當選した以上は政治に熱意を以て勉强するし議員としての働きによつて國民の切實な問題を解決したいと信じてゐます」と　寫眞右から二番目

異議申立を主体の

滯納整理平税で始む

平税務署では昨五日より月末迄全署員をあげて滯納整理に乘出すことになつた、日割は左の通り

七日ー三十日　郡部一帶
六日　平市一圓

尚今度の滯納整理は該當者に直接當つて其の原因を具体的に調査しながら差押へ處分を行つて行くもので、今迄は滯納者の申立を主体にしたので正直者は馬鹿を見る結果を生んでゐたが、今度の方法で進めば課税も公平で納税者も進んで納め ることになる、又滯納の際家宅捜索を受けても両者納得の差押が出來て感情問題からのいざこざが無くなるだらうと大いに期待されて居る

全國區本縣關係

候補者の得票數

全國區福島縣關係候補の得票數判明せるもの

		石城郡	双葉郡
自	伊藤　幟	二、五七五	一、四九四
〃	渡邊　信任	二、四三〇	一、七八五
〃	岩澤　忠泰	一、五七一	一、一〇四
〃	原　孝吉	三、二八一	一、二二一
〃	河原田　嚴	一、〇三七	二二
〃	野田　卯一	一、六八七	三二
社	内村　清次	一、一九七	四七三
〃	榊原　巖	二、八四九	二、一八六
〃	鹽谷　信雄	二、三三〇	一二五
民	田倉　八郎	三、五〇二	一五
〃	鈴木　傳明	八、六八四	一、〇八二
無	三浦　辰雄	三、三二七	二、八六五
共	高倉　輝	三、五〇二	一五

双葉郡總計

双葉地方事務所管内の開票集計は好調で四日午後六時三十分新山村の分を皮切りに浪江か最後で地方區六町十三村役場分五日二時まで に總集計を終つた、同管内の有權者數は男二万七百九十二、女二万三千七百七十二、計四万四千五百六十五で其のうち投票者は男一万八千六十九、女一万七千九百十六、計三万五千九百八十五、棄權者は八千五百八十、うち女五千八百五六、男二千七百二十四であり、惡天候に心配されてゐた棄權率も一割九分三厘で比較的良好だつた

田倉候補の後援

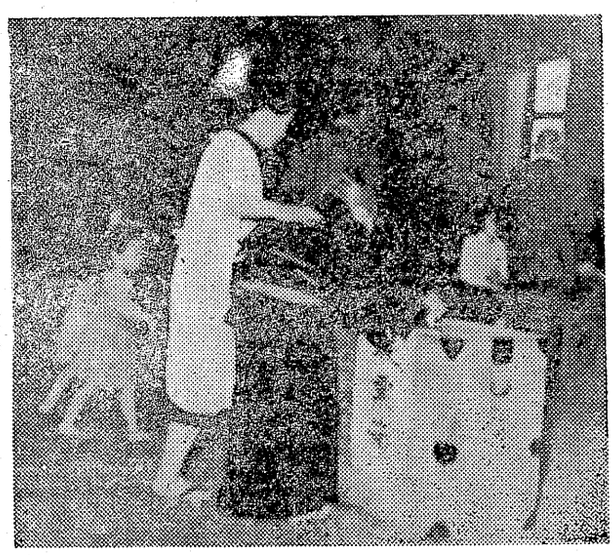
選擧違反追及中

双葉郡木戸大字上小塙字小富岡地區署え檢擧された、山高木秀雄氏は選擧違反で同氏は田倉八郎氏の應援者で其の票數の確保のため買收した疑いによるもので、惡質行爲と見られてゐる、同村猪狩芳江氏も同じく選財團法人いわき福音協會で收した疑いによるもので、

思想教化講演

いわき福音協會で

七日午後七時半より平市公會堂に於て思想教化講演を開催する、講師キリスト教大學教授エドワード、シージョン博士



孫さんに連られて仲よく投票するところ

兒童の不良化を防げ

磐高校長　野々山三郎

家は貧しい、而し母親は子供の教育に熱心で、愛情あふるる賢婦人であるというのが偉人傳の常石である。つまり凡ての偉人は家庭内において作り上げられるということである。反對に不良兒や犯罪者が家庭教育の誤りから生れ出ることも常石といわなければならない。學校も社會もどうにも出來ない人柄が家庭の中で作られるのである。では家庭とは何であるか學校も社會も持たない、家庭のみの持つ强味とは何であらうか、無色な軟柔性に富む幼年期を過すということも勿論計算に入れなければならないけれども、家庭は生命にうるをいを與える場であり人間、陶冶の現實性を豊富に持つことをその特徴としてあげなければならない。子供を抱く運動を起してはどうかという意見を先日新聞で讀んだが、誠にこれこそ偉時大なヒューマニテイーの運動だと思う。十五六の年までたまに子供をいだき、背負い同きんすることが子供の教育費確保運動、共濟組合昭和二十五年度避地指定教科書展示會認定講習、其の他について協議した

石城・双葉郡の得票數

石城、双葉二郡地方事務所調査による地方區選出候補の得票數は左の通りである

石城		双葉	
木村	西、四七三	木村	二〇、九九四
橋本	五、二八四	橋本	五、一〇三
田中	三、六四四	田中	五、八九七
服部	五、四七六	服部	一、二三

校長會議

教委石城出張所管内の小中學校長會議は五日午前十一時から平市第一小學校で教員新採用者初任給や教員の昇給、昇格手當、標準義務教育費確保運動、共濟組合負い同きんすることが子供昭和二十五年度避地指定教科書展示會認定講習、其の他について協議した

投票券持歸り

浪江に六枚

双葉郡浪江役場では同日投票者總數三千百三十四のところ開票の結果六票不足し帳簿と合わず再調した爲め郡下最終の番になつて集計を送達したが原因は投票者が投票所に入場はしたが投票しないで歸つたため

大浦全村あげて

おらが木村に投票

石城地方事務所では四日午後六時から五日朝九時頃までかかつて管内各開票所から頻りなしに電話で連絡報告してくる開票結果を集計したがその調べによると石城郡下の總投票率は七七八％で、うち男八三、四％女七二、四％といふまづ好成績であつた、なかでも大浦村は男九割六分二厘、女九割八分五厘の投票振りで驚異的な好記錄を納めたが木村氏の絶對的な地盤であつた丈に全村擧げて木村氏を支持し總投票者數二千七百五十六名中二千四百九十六名が木村氏を支持するという壓倒的な投票振りであつた、トップの大浦村に次いで澤渡、三阪組合が九割二分、四倉、錦、夏井などの順で何れも女性の投票率が非常に高調を示し、農村漁村の婦人投票は著しく好成積であつた、これにひきかえ川部村は非常に低調で女性の投票率は四割九分といふ郡内で一番不成積であつた

磐城通運惜敗

第六回軟式野球

平市東南クラブ第六回親善軟式野球大會は雨でのびのびになつてゐたが三、四日の両日市營球場で行つた、準々決勝以後の試合は準々決勝

白銀町7—6北友クラブ、イワキ通運5—1平税務所平ラガー3—2MBM、久保町12—3鹽青年會

準決勝

イワキ通運4—3白銀町、平ラガー4—3久保町

決勝

平ラガー4—2イワキ通運で優勝カップは平ラガーの手に

家庭用砂糖

八日より配給

平市では五月分一般家庭調味用砂糖の現品が入つたので八日から配給する

△配給對照　家庭用砂糖購入通帳持參（乳兒用受配者除外）

△基準量　一人當り三百瓦

△價格　三百瓦當り十七円二十五

△購入券　購入通帳八號券

……映……画……會……

花ある毒草

平保健所では工場從業員の衛生普及のため左記の日程で映畫の會を開く

十二日　湯本町白煉瓦工場
十三日　小名濱日本水素工場、十四日　錦吳羽化學工場、十五日　勿來大日本炭礦、十六日　山田大昭炭礦、十七日　平保健所職員一同

種類は花ある毒草（性教育）外數卷

魚菜相場

—五日現在—

（魚市場）

（單位貫）

カツオ	二三〇—二三〇円
ブリ	二三〇—二四〇円
サイカリ	二〇〇—二三〇円
バヤナギ	一三〇円
ビエ	一〇〇円
小ダイ	五〇〇円
カナガシラ	五〇〇円
	二〇〇—二三〇円

野菜市場は定休日

愛の記錄

出生▲三日平市白銀町四十志賀好一（長男）好文さん

死亡▲三十日平市字大町三十一加藤兼治（五四）さん▲三十日平市字古鍛冶町小田勇（五〇）さん

健康保險指定診療所
外科　木村外科醫院
平市南町一四
電話三〇九番

健康保險指定診療所
皮膚科　性病科　内科　矢吹醫院
平市縣社下
電話一一九三　一二九五番

健康保險指定診療所
産科　婦人科　齋藤醫院
平市南町
電話九二番

健康保險指定診療所
呼吸器科　胃腸科　小兒科　後藤醫院
平市古鍛冶町（縣社下）
電話一〇三六番

健康保險指定診療所
鈴木耳鼻咽喉科醫院
平市田町
電話六一三番